



社会主義的競争の功罪

山崎 昌 甫

一 二二二でとりあげる問題の限定

編集部から与えられたテーマは、標題にあるように、「社会主義的競争の功罪」である。問題になるのは、「功罪」という表現である。社会主義的競争の良い点と悪い点は何か、——を究明することがわたしに与えられた課題なのであろう。しかし、よしあしを評価する基準は何なのか。資本主義的競争との比較において、それを問題にすることなのか、それとも、競争状態を目的意識的に、操作的につくりだす側と競争状態の中に置かれていて側との間に生まれてくる問題をとりあげるのか。このような問題の究明を標題とのかかわりで進めることは、わたしには不可能である。なぜなら、競争状態そのものを、それが要求される社

会的諸条件から切り離して、抽象的に取り上げることが、無意味だからである。特に資本主義的競争の悪弊・罪悪性に心からの怒りを感じているものにとっては、社会主義的競争の功罪を論ずる以前に、社会主義的競争が、社会主義建設にとってどういう意味をもっているのかを明らかにすることが前提でなければならぬだろう。「功罪」は、そういう意味で、社会主義を建設し、社会主義社会の発展を支える人々が、社会主義自身の問題としてのみこれを論ずることができのではあるまいか。したがって、ここでは、社会主義的競争が社会主義社会の建設にとってどういう意味をもっているのかに問題を限定し、さらにその論点をレニンの諸論文を基底にして展開するにとどめることにす

二 社会主義社会に競争は必要か

例えば、われわれが常識的に理解している競争という事態は、「動機づけとして競争は協同よりも効果的である。」しかし「競争を学習の動機づけとして用いることは、勝者を増長させ、敗者に劣等感を植えつけることがあるから、注意しなければならぬ。」という消極的なものである。他方このような「個人的にまたはグループ対グループとして互いに顔を合わせ」て行なわれる直接的競争ではなく、「広範かつ複雑な社会的競争である」間接的競争は、「その中に成長し、住む人たちの間に、自ら見えざる競争者への漠然とした競争態度、攻撃性を生む。これがこの人たちのパソナリティー形成に大きな影響を及ぼすことはいうまでもない。近代社会における不安感の発生もまたこの間接的競争を大きな要因としている。」というように否定的なものである。それでは社会主義社会では、競争を、われわれが常識として持っているように消極的、否定的に考えているのだろうか。否である。

それでは社会主義社会での競争の社会的意義は？レニンは次のように指摘している。「ブルジョア文筆家は、競争、私的企業心その他資本家と資本主義制度のすばらしい長所や魅力を賛美したことを、紙の山ができるほど書き

ちらしてきたし、いまも書きちらしている。社会主義者は、この長所と意義を理解しようとせず、『人間の天性』を重く見ようとしなさいとって非難されてきた。」だが、「社会主義は、競争の火を消さないばかりでなく、反対に、これを真にひろく、真に大衆的な規模で応用し、勤労者の大多数を……活動舞台に実際にひきいれて、彼らがここで自分の本領を發揮し、その能力をのびし、まだ一度もくみだしたことの無い泉として人民のなかに潜んでいるところの、そして資本主義が幾千幾百万となくもみくちやにし、押しつぶし、しめ殺してきたところの、天分を發揮する可能性をはじめてつくりだすのである。」「社会主義政府が権力をにぎっているいま、われわれの任務は、競争を組織することである。」——として積極的に評価し、これを大衆的に推進すべきことを提起している。

「競争を組織する」ということばによって象徴されている、社会主義的競争の資本主義的競争との最も決定的な違いは、後者が競争の本質を組織性、集団性と対立するものとみていることであろう。先に引用した競争についての評価は、そのことを示している。もっと消極的な言い方をすれば、このふたりの心理学者は、資本主義社会では、有効かつ積極的な性格をもっているはずの競争が、逆の機能・作用を現わさざるを得ない必然性を指摘しているのではあ

るまいか、と。というのは、レーニンは、「資本主義は、競争が企業心、活動力、創意の大胆さを、かなり広い範囲にうちかうことのできた、独立した商品生産を、ずっと昔に大規模工場生産、株式企業、シンジケート、その他の独占体に代えてしまったのである。このような資本主義のもとでは、住民大衆、その大多数、勤労者の九割九分の人々の企業心、活動力、大胆な創意に対する、これまで聞いたこともないほど狂暴な圧迫を意味しており、また社会の上層では金融上のべてん、専制、お追従が、競争に代わったことを意味している。」——と言っているからである。つまり、前者は社会主義的競争は、大衆的な企業心、活動力、大胆な創意の社会的な発現形態であって、競争と対立する概念は、資本主義社会におけるそれが組織性、集団性であったのと違つて、「金融上のべてん、専制、お追従」なのである。そういう意味では、競争という事態は社会的歴史的な社会現象であつて、それぞれの歴史的社会的階級性を反映しているといつていいだろう。したがつて、社会主義社会建設期の競争は、きわめてきびしいものである。「強いられた労働から自分のための労働への、この人類史上最大の推移は、摩擦も、困難も、衝突もなしに、積年の座食者とその腰巾着に暴力を加えることもなしに、起ころうといふわけにはいかない。この点については、労働者はだれひとり幻想

の中でひきおこされる限り、自由競争が独占に転化する」という歴史的必然性をもっているのと違つて、政治課題として、言い換えれば、競争を社会主義社会を建設するという目的意識的な経済の原則の一つとして位置づけられるのである。競争の意味把握の迷いが出てくるのは当然である。このことをレーニンは、ブルジョア経済学者が、「社会主義者は競争の意義を否定しているかのような、あるいは社会主義者の体系、または社会主義者のいわゆる社会制度の概観図の中で競争に存在の余地を与えていないかのような言明をしばしば行なつてきた。」ことへの批判として、次のように競争の意義とその役割を述べている。

まず競争の意義については、すでに(二)で展開した見解をもう一步深める形で「ブルジョア経済学者たちは、いつもそうだが、資本主義の特殊性の問題と、別の形態で競争を組織する問題とを混同した。社会主義者の攻撃は、決して競争そのものに向けられたことはなく、もっぱら競争に向けられていた。競争とは、資本主義社会に固有な、また一片のパンと市場における勢力・地歩をめぐる個々の生産者の闘争という点にある、競争の特殊な形態である。生産者の市場とだけ結びついた闘争としての競争の絶滅は、決して競争の廃棄を意味しない——反対に、可能な商品生産と資本主義との廃絶こそ、競争をその野

をもつていない。長い長い年月搾取者のために苦役の労働をさせられ、搾取者から数知れない愚弄と侮辱を受けて鍛え上げられ、苦しい窮乏によって鍛え上げられた労働者と農民は、搾取者の反抗をうちくたくには時間がかかるということを知っている。「いま、最大の任務とまではいえないにしても、最大の任務の一つとなつてゐるのは、創造的な組織活動における労働者の、一般にすべての勤労被搾取者のこの自主的創意を、できるだけ広く發展させることである。」——と。

- (1) 依田 新：「教育心理学入門」有斐閣 一四四～一四六
- (2) 南 博：「社会心理学」光文社 八四～八七
- (3) レーニン全集二六卷「競争をどう組織するか」大月書店 四一五～四一六
- (4) 同 右 四一五～四一八

三 社会主義社会にとって競争とは何か

資本主義社会の競争と社会主義社会でのそれとの歴史的な意味の違い、つまり生産関係の質的転換によつて成立した新たな階級関係が生み出した競争の本質は、したがつて、資本主義的なイデオロギーには正確に把握できない。「競争の組織」という課題が、資本主義社会においては、「生産の無政府性」という不可避的な社会法則の作用による

変な形態ではなく、人間的な形態が組織する可能性に目をひらくものである。ソビエト共和国に生み出された政治権力を基礎とし、果てしない大地と驚くべき多様な諸条件をもつロシアを特徴づけている経済的特質をそなえた今日のロシアでこそ——まさに今日のわが国でこそ、社会主義の原則に基づいて競争を組織することは、社会の再組織という最も重要な、最もやりがいのある任務の一つでなければならぬ。」——と。

次に競争の役割ないし任務については、第一に民主主義的中央集権制を実施すること、第二には、ロシアの経済機構を社会主義的な経済機構に再組織するための、科学的で経済的な方法を発見すること——の二つの側面があるとしている。第一の民主主義的中央集権制については、それが官僚的な中央集権制や無政府主義とは根本的に違つし、また、官僚主義や紋切型の処理が不可避な資本主義的な行政制度と全く違つた運用の仕方が採られなければならないと強調する。つまり、「中央集権制の反対者は、いつもきまつて、中央集権制に偶発的に付随するものとたたかう手段として、自治と連邦制を提唱する。実際には、民主主義的中央集権制は、決して自治を排除するものではなく、反対に、その必要を前提とする」し、「実際には連邦制でさえ、……民主主義的中央集権制に決して矛盾するものではない」

——と。だからそれは、「國のさまざまな地方が、否、さまざまな共同体さえ、國家生活、社会生活、経済生活の多種多様な形態をつくりあげるきわめて完全な自由を少しも排除せず、むしろ前提としている。」なぜなら、「今日われわれの任務は、ほかならぬこの民主主義的中央集権制を經濟の分野で実現し、鉄道・郵便・電信その他の運輸手段、等のような經濟企業がその機能を果たす上で完全な整然と統一を確保することであるが、同時に、……地方的特性だけでなく、地方的發意、地方的創意、共通の目的を目ざす運動の多種多様な方途・方法および手段をも完全に、支障なく發展させるといふ、歴史によって初めてつくりだされた可能性を前提とするものである」からだ——とする。そして、このような政治制度の土台をなす社会主義的經濟機構を組織するには、まさに「競争の組織化」が必要なのだが、この方法は、まず「公開性を確保して、國家のすべての共同体が、各地方の經濟的發展はまさにどのようによすんだかに通曉しうるようにならなければならない」というに、國家のあるコミュニオンと他のコミュニオンとで、社会主義を目ざす運動の成果の比較を可能にすることであり、第三に、ある共同体で遂行された実験を他の共同体が実際に繰り返す可能性を確保することであり、國民經濟または國家行政のそれぞれの分野で、自分の最良の面を發揮した物質

的諸力と人的諸力の交換の可能性を確保することである。」
 それではこのような「競争の組織化」を實際に推し進めていく場合の、具体的、実践的手だてをレーニンは何に求めたのだろうか。それは、「記帳と統制」である。「記帳と統制——それこそ、各労働者・兵士・農民代表ソビエト、各消費組合、各供給組合または供給委員会、各工場委員会または労働者統制機関一般の主要な經濟的任務である。」
 「記帳と統制——ただし、労働者・兵士・農民代表ソビエトによって、あるいはこの権力の指示・委任に基づいて行なわれる場合の——いたるところで、全般的、普遍的に行なわれる記帳と統制、労働量と生産物分配に対する記帳と統制——プロレタリアートの政治的支配がつくりだされ、保障されたなら、ここにこそ、社会主義的改造の眼目がある。」
 そして「社会主義へ移行する上に必要な記帳と統制は、大衆的なものでしかあり得ない。金持・ベテラン師・座食者・無頼漢に対して行なう記帳と統制に、労働者農民大衆が自発的に、誠実に、革命的熱情をもって協力することだけが、のろうべき資本主義社会のこれら遺物、これらの人間にくず、手のつけようがないまで腐り、感覺を失った人々、資本主義から遺産として社会主義に残されたこの悪疫、ペスト・潰瘍（潰瘍）のうちかつことができる。」
 「労働者・農民・勤勞被搾取者諸君！土地・銀行・工場は全人民の所

有に移った！物資の生産と分配に対する記帳と統制に、自分でとりかかりたまえ——社会主義の勝利への道、その勝利の保障、あらゆる搾取とあらゆる欠乏と貧困に対する勝利の保障はここに、ここにだけある！なぜなら、労働と生産物を正しく分配しさえすれば、この分配に対する全人民の實務的、實際的な統制を確立しさえすれば、政治だけでなく、日常の經濟生活でも、人民の敵、金持、その寄食者、さらにベテラン師・座食者また無頼漢に勝ちさえすれば、ロシアには穀物・鉄・木材・羊毛・綿花および麻が、すべての人に十分あるのである。」——と。

- (1) レーニン全集二七卷「論文『ソビエト権力の当面の任務』の最初の草稿」二〇九〜二一〇、
- (2) 同 右 二二〇〜二二二、
- (3) 同 右 二六卷前出 四一九〜四二〇、

四 社会主義的競争を支える条件は何か

(一)、(二)を通じて、「ブルジョアジーが社会主義について、好んで言いふらしているたわ言の一つとして、まるで社会主義者が競争の意義を否定しているかのようによくある。ところが実際には、社会主義だけが、階級をなくし、したがってまた大衆の奴隷化をなくして、はじめ、真に大衆的な規模での競争のための道をきりひらく」ことがで

きることを明らかにしてきた。つまり、「ソビエト組織こそブルジョア共和制の形式的な民主主義をやめて勤勞大衆を實際に管理に参加させるようになり、そのことによって初めて競争を広範に展開させる」ことができる。このことは、記帳と統制を徹底させるとともに、その成果を公開し、相互に比較すること、さらにその成果を、人的な面でも物的な面でも相互に交流し合うことによって、初めて大衆的な企業心、活動力、大胆な創意の發揮が可能であること、を明らかにしてきた。そしてこの競争の組織化には、政治的な側面と經濟的側面との両面があり、「これを政治の分野でやることは、經濟の分野でやるよりも、はるかに容易である」ことを指摘し、「しかし社会主義の成功のためには、後者こそ重要なのである」として、經濟の分野での競争の組織化の環が、労働生産性の向上にあることを強調した上で、次のような諸点について指示を与えている。

まず、「どの社会主義革命でも、プロレタリアートによる権力獲得という任務が解決されたのちは、そして収奪者を収奪して彼らの反抗を弾圧するという任務が大體解決されるに従って、資本主義よりもいっそう高度な社会的經濟制度をつくりだすという根本的任務が、必ず首位に押し出されるようになる。すなわち、労働生産性の向上、およびそれと関連した（またそのための）いっそう高度な労働組

織がそれである」として、労働生産性の向上が社会主義社会建設の経済的土台を構築するため必須の条件であることとを明らかにし、この任務をしっかりと達成するには、「中央国家権力は数日間て奪取することができたとしても」、「どうしても（苦痛をわまらぬ）破滅的な競争のあとではとりわけ）、数年を要する。この場合、この仕事は長期にわたるものであることは、空想的情勢によって無条件に決められている」と、その展望を明らかにしている。

次いで、労働生産性を高めるための物質的条件を三つあげる。第一に、「大工業の物質的基礎を確保すること、…すなわち、燃料・鉄・機械製作・化学工業の生産を発達させること」、この点では、「ロシア・ソビエト共和国は、…膨大な資源をもっていて、そのかぎりでは有利な条件のもとにある。これらの天然資源を、最新の技術をつかって開発するならば、生産力の空前の進歩の基礎が得られる」としている。第二は、「住民大衆の教育と文化の向上」であり、第三は、「勤労者の規律の向上、働く腕前の向上、技量の上述、労働強度の増進、労働組織の改善も経済的高揚の条件である。」そして、「一・三の条件にかかわって、レーニンは率直かつ大胆に次のような問題を提起する。「ロシア人は先進諸国民に比べると働き手としては劣っている。ツァーリズムの制度のもとでは、また農奴制の遺産が生き残

つくるべき新しい世代の学習・教育・陶冶も古いままであつてはならない。…青年の学習・教育・陶冶は、古い社会がわれわれに残した知識・組織・施設の総和からだけ、古い社会がわれわれに残した人力と資材のたくわえをもちいてのみ、初めて共産主義を建設することができるのである。」とここで、「古い資本主義社会がわれわれに残した書悪と災害の中で最も大きなものの一つは、本と生活の実際とが完全に分離していることである」。したがって、「人間の知識が蓄積したものを習得しなくても共産主義者になれる」という結論を引き出そうと試みるなら、とんでもないまちがいをおかすことになるうし、「活動もせず、闘争もしないでは、共産主義の小冊子や著作から得た本の上の共産主義の知識は、三文の値うちもない。…もしわれわれが共産主義のスローガンだけを習得することを始めるなら、さらにいっそう危険であろう。」と。

二十世紀後半を生きるわれわれにとって社会主義は、書物の上のことであったり、一部の人々、一国のそれでは決してない。しかもこの社会主義体制は、資本主義の最後の必死の競争の挑戦を受けている。やはりわれわれは、性急に「社会主義的競争の功罪」を論ずべきではないのであるまいか。なぜなら、それはレーニンを指摘しているよう

っている間は、そうなるよりほかなかった。働くことを学ぶこと——ソビエト権力は、この任務を全面的に人民の前に提起しなければならぬ。この点での資本主義の最新の成果であるテーラー・システムは、——資本主義のいっさいの進歩と同様に——ブルジョア的搾取の洗練された残忍さと、一連のきわめて豊富な科学的成果——労働の際の機械的運動の分析や、よけいな不器用な運動の除去や、最も正しい作業方法の考案や、最もすぐれた記憶と統制の制度の採用など——とを、そのなかにかねてそなえているのである。ソビエト共和国は、この分野での科学と技術の成果のうち貴重なものは、すべて、どうしても見習って自分のものとしなければならない。社会主義を実現する可能性は、われわれが、ソビエト権力とソビエト的管理組織とを、資本主義の最新の進歩と結びつけることに成功するかどうかによってこそ、決まるであろう」と。そして、これと同じ趣旨のことを、第二の条件にかかわっても指摘している。それは、「青年同盟の任務」についても演説の中に集約されている。「一般に青年の、特に共産青年同盟その他あらゆる組織の…任務は、一言で言い表わすことができるといわなければならない。その任務とは、まなぶ、ということである。」それでは、「何を学ぶべきか、またいかに学ぶべきか？…古い資本主義社会が改革されるにつれて、共産主義社会を

に、共産主義社会を目ざしての困難な長期の仕事であるからである。(和光大学助教授)

- (1) レーニン全集二七巻「ソビエト権力の当面の任務」二六二頁
- (2) 同 右 二五九頁〜二六一頁
- (3) 同 全集三一巻「青年同盟の任務」二五八頁〜二六三頁

教員養成大学特殊教育研究会編 価二、八〇〇円

精神薄弱教育の研究 橋本重治編著 価三、〇〇〇円

肢体不自由教育総説 橋本重治編著 価八〇〇円

脳性まひ児の心理と教育 好評絶賛・発売中！ 金子書房